



新潟市升潟
高橋摩谷子さん(71歳)



新潟市曾根
石田記代子さん(68歳)

妙たえの光ひかり

復刊115号

底抜けに明るい 茶飲み友達

「ワ、あんた着物で来てくれたの。嬉しい！」
「だって今年初めて会うし、それに写真も撮
るって聞いたから。その代り今日はお茶飲ま
ないよ、トイレに行けないから。」「大丈夫
裾をパッとめくればいいんだよ。私が手
伝ってあげるから。」会う早々2人の会話は
にぎやかに弾んだ。
年に数回互いの家を訪ねてお茶飲みする。
記代子さんは隣町から会社員の夫に、摩谷子
さんは静岡から農家に嫁ぎ、共に義父母と同
居した。お互いの家は車で10分もかからない
距離だが、集落が違うので親しくなったのは
妙光寺での行事のお手伝いがきっかけだった
という。
何でもズバズバ大きな声で喋り、屈託の無
い笑い声で談笑する2人の会話は、寺の台
所でも周囲が引きずり込まれるほどにぎやか
だ。正月過ぎのある日、2人のお茶飲みと同
席させて頂いた。(院首記(2ページに続く))

行事案内

春のお彼岸中日法要

例年より30分早い開始です！

3月20日(土・祝)

午前 10時 安穏廟法要
10時半 春季彼岸法要…本堂
11時半 住職法話
お彼岸は春秋2回、陽気も良くなり昼夜の時間が同じ
になるこの日、心の偏りをなくして仏様の教えを修行しま
しょうという古くからの行事です。どうぞお出かけください。

第6回浄土講座

『角田浜妙光寺山古墳(仮称)』説明会

4月10日(土)13:30~

昨年発見されて話題になった『古墳』について、新潟
大学名誉教授の橋本博文先生より、その後の調査結果
を踏まえたお話を伺います。
※詳細はチラシをご覧ください。

『ご妙判お大会』と『得度式』

4月29日(木・祝)

お大会は江戸時代から続く伝統行事ですが、感染症
対策のため、昨年に続き法要のみとしてお練りは行いま
せん。当日、新たに僧侶を目指す櫻井さんの得度式(僧
侶になるための最初の儀式)があります。
※詳細はチラシをご覧ください。

月例信行会 毎月第1日曜日

4月4日(日)、5月2日(日)、6月6日(日)

毎月第1日曜日 朝 7時~9時
会費 1,000円(各自賽銭箱にお願いします)
※予約不要。当日お寺へ直接お越しください。
お参り、法話、作務、朝粥の朝食、コーヒータム等が
あり、交流の輪も広がります。

月例ボランテラ 毎月15日

午前9時~11時半
午後1時~3時
堂内や境内の清掃等をお願いしています。都合の良
い時間にお越し下さい。昼食はご持参願います。

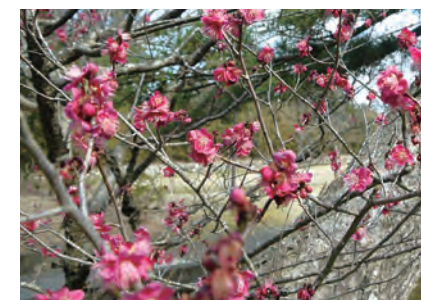


「お寺でヨガ」

感染症終息の見通しが立たない為休止します。

あ と が き

日蓮宗の「大荒行」は世界三大荒行の一つと言われています。妙光寺
の田村上人も、今冬の「大荒行」に入行し無事成満しました。今号では、「修
行」の境地について、宗教学者正木晃先生にお話をうかがいました。私たち
凡夫も、日常の中で「修行」に近づくことができるという先生のお話は、心強い
ものでした。是非お読みください。コロナ禍の中、厳しい毎日が続きます。晴れ
晴れしたい日には、どうぞお参りにお出かけください。(新倉理恵子)



妙光寺に咲いている春の花たち



新潟市升潟 高橋摩谷子さん(71歳)

夫婦のなれそめ

記代子 初めて聞くけど、どんな縁があつて静岡から嫁いで来たの？

摩谷子 実家は清水市のみかんと花を作る農家なの。冬になると毎年、みかんの収穫の人手を全国に頼んでた。宿舎には風呂もあつて食事も出す。そこに夫が農業高校出て家業の農業やつてるけど、冬は暇だから」と友達4人で3年間来たの。2人で結婚しようとなつたけど、私が3人弟妹の長女だったせいか、親が「新潟は方角が悪い」と猛反対。駆け落ちするとか子ども作るとか考えたけど、それはしたくなかつたので、1年かけて説得した。「貧乏だから嫁にやれないって言うの」って聞いたたら、父は「そこまで言うなら縁



摩谷子さんの
実家から届いた蜜柑“はるみ”

を切る」と言った。「さっぱりしてその方が気が楽だわ」って私も言い返してね。

記代子 すごいドラマがあつたんだね。私は中学を出て近くの小さな個人病院で住み込みの看護師見習いしながら、助看護師学校に2年、准看護師学校に2年、それから夜間の定時制高校にも3年通つた。正看護師目指して看護学校に進むつもりだったけど、姉の紹介で祖母ちゃんにも「良い人だよ」って背中押されて、結婚したのよ。そのとき近くにできたワコールの縫製工場の医務室に誘われて、36年間勤めたわ。

摩谷子 16歳から他人の釜の飯を7年も食べて頑張つたね。親だつて教えないことを経験してきたんだ。

記代子 院長の奥様が入院患者のために美味しい食事を作りながら、私たちにも料理を教えてくださいました。いま料理が好きなのはそのせいね。定時制高校の時は弁論大会の原稿まで直してくれた。毎週金曜の夜は勉強会があつて院長先生の哲学講義があるの。「人間は考える葦である」なんて言葉はそこで初めて聞いた。でも

未だに意味は分らない。疲れて眠気が来るし。院長からは無理だねって言われて、それからは奥様に与えられた『婦人の友』で勉強した。こんな私だけど、性格が良いのか高校では赤点取つても先生がいつも下駄履かせてくれたしね。ハハハ。ところで 摩谷子という名前は珍しいけどどうして？

摩谷子 私は我が家で34年ぶりに産まれた女の子で、しかもお釈迦様と同じ4月8日が誕生日。祖父ちゃんが「こりゃあ大変だ」と言つて菩提寺の住職に相談に行つたら付けてくれた。お釈迦様のお母さんの「摩耶夫人」からいただいたそうよ。だから寺に縁があるんだわ。嫁いだダンナの家のお爺ちゃん(義父)と婆ちゃん(義母)も、妙光寺の世話人をして、本当に信心家だつたもの。

家族の中で

摩谷子 いざ結婚したら色々あるよね。ダンナがわがままで食事の好き嫌いが激しかったの。婆ちゃんに「男が一人だけだつたから、大事にしたらこんなになつ



新潟市曽根 石田記代子さん(68歳)

てしまった」と言われたときは呆れる前に笑つたわ。あのころは茶の間に囲炉裏があつて、爺ちゃんの席、婆ちゃんの席、夫の席、お客様の席と決まつた。嫁の私の座る場所がないの。だからいまは囲炉裏をなくして、椅子とテーブルにしたんだ。

でも爺ちゃんは読書好きで私と趣味が合つていつも話したし、婆ちゃんは「自分の子は自分の手で育てれ」と私に仕事をさせなかつた。近所の人に色々言われたけど「ウチにはウチのやり方がある」ってかばつてくれた。

記代子 ウチは爺ちゃんが料理してたけど、私がするようになつたら気になつて、障子に指で穴開けてそこからのぞくの。「心配だつたらそばで見れば」ってはっきり言つたら、任せてくれるようになった。

大変だつたのは子育てよ。息子が中学で喫煙が見つかつて呼び出されたの。そのときダンナが息子に「なんで見張りを立てなかつた」と言つたのには笑つたね。高校生のときは先生と取っ組み合いの喧嘩もした。叱つた私も取っ組み合いになつ

て、ダンナが帰つてきて私が引つかかれた傷を見せたら、息子は私の歯形が残つた手を見せたの。ダンナは息子に「女親に向かつて手を上げるとは何事だ」と言つた。夜になつてから私に「どうして子どもと同じ気になつてるんだ。親なんだから言い聞かせなければ」って言われてもつともだと思つたわ。

いじめ問題で学校に呼び出されたこともあつた。翌日息子が「学校を休みたい」と言つたので、「自分にやましいことがなければ堂々と行け！」と言つたの。帰るなり「クラス内で話し合つて解決したけど、親が呼び出された他の子は皆欠席した。俺行つて良かった」って。放任は駄目だけど、子供を信じるこつて大事だよ。

前を向いて悔いなく生きる

摩谷子 確かに学校が荒れた時代だったから大変だったよね。お金はないしさ。でも3人の子どもは皆、母乳で育てることが出来たの。冷凍保存もして工夫してね。だから「私のおかげで乳牛を2頭も飼つているようなもの。ミルク代が助かるでしょ」っていつも言つてた。

息子は希望して制服のない高校に行つたの。冬はコートの下にいつもジャージ。



記代子さん手製のドライフラワーとタペストリー

そのまま寝てるからパジャマで登校してたようなもの。先生も「今日もパジャマのままか」って言つたらしい。本当に男の子はしょうがないね。手がからなくなつたら今度は仕送りが大変で、ダンナは兼業でタクシー運転手、私は飲食店で働いたの。女だけの職場で大変だつた。結婚に反対されたときもそうだったけど、「どんなに大変でも悔いを残さない生き方をしたい」とずっと思つて生きてきたわ。

実家の父が余命幾ばくもないとのこと、1ヶ月半看病に行かせてもらった。途中でダンナも来てくれたとき、喉頭がんで声の出ない父が大きなスケッチブックに「英一君、何事も無く娘を幸せにしてくれてありがとう」って書いたの。

記代子 人生色々あるよね。私もワコールを早期退職すれば退職金も増額されたのに、少し頑張つたら不景気になつて

大幅減額された。ダンナも給料が減つたのに、交通事故の加害者になつてすごい賠償金を請求された。しかもそのときお寺の本堂建て替えに寄付する約束もあつて大変だつた。でも明るく前向きに頑張れば何とかなるもんだと今になつて思うわ。他人に何言われようとへのかつば。声が大きくて通るから、今働いている高齢者施設でも隅から隅まで声が届くの。「威圧感がある」って言う人もいるけど、気にしない。

寺を支えたい

摩谷子 お寺になぎささんのお見舞いに行くと「良恵住職が若くて経験がないから心配。助けてあげてね」と涙を流すの。「大丈夫。良恵さんは理解力があるから心配ない。経験のないところは私たちが必ず支えるから。それよりいまは自分の人生を考えようよ」って答えた。帰り道で母親だつて思つて涙が出たわ。

母親と言えは、自分も歳だし洋服とか色々整理している。でも絶対に捨てられないのが新婚旅行に着ていった服なの。母親が夜なべして縫つてくれたんだよ。思い出があるからね。

婆ちゃん(義母)の葬式だつたかなあ、実家の弟が静岡から来てくれたんだよ

ね。そのとき新潟の葬式が派手だつて驚いてた。近頃は随分変わったけど、あのころは大きな会館に大勢集まつて飲食も豪華だつた。静岡じゃお寺を借りてやるんだ。あんなに馳走しないよ。この辺ではあまりお寺でできるでしょ。お寺も大変だろうけど良いことだし、檀徒はどんなに使えばいいよね。

記代子 私は着なくなった服は、発展途上国に送る所に出している。少しでも世の中の役に立ちたいもの。おんなじように、お寺は長い歴史を繋ぎながら私たちのお墓を守つて、生き方の教えを伝えてくれる大事なところだと思つている。みんな支えたいよね。

これから春になると大好きな山菜採りに行つて、ワラビ、ウド、タケノコ、ゼンマイとか沢山採ってくるの。お寺には生や漬物にして届けるけど、行事にも使えるから皆さんがとっても喜んでくれる。農家の人が米や野菜を持って行くのと同じだね。

行事以外も含めて年に5〜6回はお寺に行くけど、いつ行つても楽しいし、こうやつてあんだとも友達にもなれたもの。これからもどんなお手伝いに行くつもりだよ。(院首記)

安

穩

小川良恵



朝ごはん —寺葬儀の朝に—

母が亡くなって半年が過ぎました。とてもありがたいことに、いまだにお悔やみに来てくださる方もいらっしゃいます。

母の朝食づくり

ある方は「お寺に泊まった葬儀の朝、なぎささんの朝食が美味しかったことが忘れられません」と、数年以上前の思い出話を聞かせてくださいました。妙光寺の周辺はご存じの通り、コンビニですら車で10分余かかる場所です。疲れている葬儀の時に食事の心配をするのは大変だろうと、母は昔から通夜でお寺に泊った方に朝ごはんを振舞っていました。「人の作ってくれたご飯は美味しい」と生前の母がよく話していましたが、心を込めた食事は、時を経ても記憶に残るのだなと、改めて実感した次第です。私も母の葬儀の朝、地元の檀徒さんが作ってくれた朝食の暖かさが今でも忘れられません。

院首さんも並んで

母が体調を崩してからは、お米の炊き方も知らなかった院首さんが、母の指導を受けながら作ることもありました。通夜の読経を終えて戻った時に、2人並んで翌朝の仕込みをしている後ろ姿は、私が見た中で一番仲睦まじい様子だったかもしれません。

私も朝食づくり

今年に入ってから、院首さんが不在の日もあり、京住院でお葬儀があると朝食は私が作りました。東京で一人暮らしをしていたときには、自炊もしていたのですが、新潟に戻ってからは、母の料理を美味しく食べる方が専門でしたので、四苦八苦しています。通夜の日の昼間におかずの仕込みをして、翌朝はご飯とみそ汁を準備するだけという簡単なものですが、半日がかりの時もありました。ありがたいことに、食材は檀徒さんからご供養のお米に

新鮮な野菜、ときには採れたての魚もありますので、素材の味が良く、味付けはそこまで悩むことはありません。問題は調理方法です。私は元々人一倍不器用なのですが、人に食べていただくことを考えると、ニンジン一本にしても均等な千切りにしなければと、ひどく時間がかかります。

卵焼き

一番苦労したのは、いえ、しているのは卵焼きです。母の残してくれたレシピがあるのですが、何度作っても母の味になりません。半年でだいぶ近づいて、私も上手くなつたな、と調子に乗っていました。ところが先日、祖母の焼いた卵焼きを久しぶりに食べて愕然としました。私が作った卵焼きよりも何倍も美味しいのです。半世紀以上のキャリアの差と愛情の差は、なかなか埋められそうにありません。

誌上法話

小川良恵

法華経『見宝塔品第十一』

虚空会

—時間と空間を超越した世界で—

『見宝塔品第十一』はお釈迦様の説法中、地面から突如として塔が現れて、空中に留まるという場面からはじまります。塔はきらびやかに飾り付けられており、想像を絶する大きさでした。この塔の名を『多宝塔』といいます。

多宝如来の証明と条件

そして、塔の中から「善哉善哉」（すばらしい。すばらしい）とお釈迦様をほめたたえる声が聞こえてくるのです。声の主は、多宝如来という仏様で、法華経の説く教えが素晴らしいものであると証明するために姿を現すと誓いを立てられた方でした。塔の中の多宝如来は、集まった人々に姿を拝ませていただきたいと請われ、条件として、世界中全宇宙に派遣されているお釈迦様の分身を一か所に集める必要があると答えられました。このため、お釈迦様は三度に渡って私たちの住むこの娑婆世界を清め、地獄道も修羅道も区別のない一仏国土（一人の仏様が教化できる世界）と成して、準備を整えてから分身たちを集められました。

虚空会

そしてようやく、お釈迦様も空中へと浮かび上り、『多宝塔』の扉を開きました。その場の聴衆が固唾をのんで見守る中、姿を現した多宝如来は、お釈迦様の説く法華経を再びほめたたえ、その教えを聞くためにやってきたことを告げます。そして、座っておられた場所の半分を空けて、「釈迦牟尼仏、この座に就き給うべし」と促されます。

お釈迦様は即座に、多宝如来の隣に結跏趺坐（両足を組んだ胡坐の姿勢）されました。この光景を目の当たりにした者たちは、仏様たちが高いところから教えを説かれるのであれば、自分たちもどうぞ、空中高くにあがらせてくださいと心に願いました。お釈迦

様は、彼らを皆、神通力をもって引き上げて願いをかなえられました。この場面を、空中で教えが説かれることから『虚空会』といいます。これまでの霊鷲山という地に足をつけた場所での説法から、時間と空間を超越した世界でも法華経の教えが説かれることを現わしています。

法華経を広める覚悟

お釈迦様は、さらに「誰かよくこの娑婆国土において、広く妙法華経を説かん」とお尋ねになりました。お釈迦様はもうすぐご自分が涅槃に入ること（亡くなること）を明かされて、もう法華経を説くことはできない。私の代わりに法華経を広める者はいないかと問われたのです。お釈迦様が入滅された後の世界では、法華経を広めることはとても難事です。乾いた草を背負って炎の中に飛び込み火傷一つ負わないことや、足の指で世界を摘まんで動かすことのほうがよほど簡単であるなど、想像もつかない喩え話も説かれます。けれど、この法華経を広めるという覚悟は、この後の法華経の中ではとても重要で繰り返し問われています。

『大曼荼羅ご本尊』

日蓮聖人の『お曼荼羅』に描かれているのは、まさにこの『虚空会』の場面です。中央のお題目に向かって左側がお釈迦様、右側が多宝如来、二仏のお名前が書かれています。私たちもまたお釈迦様から、覚悟を問われ続けていると言えるかもしれません。

◆大晦日 令和2年12月31日

しんしんと雪が降る中での除夜でした。ライトアップされた三重塔や鐘撞堂、お焚き上げの炎が新雪に映え、清らかな気持ちで新年を迎えました。

コロナ禍で、例年の3分の2ほどの人出でしたが、訪れた家族連れは一人ひとりゆったりと除夜の鐘を撞き、記念の銀杏を戴き、福引で福を呼び寄せました。



◆正月 令和3年1月1、2日

いつもは新年のお参りとご挨拶で賑わう妙光寺ですが、今年は感染症対策のため来訪の人数を制限させていただきました。振舞いのお酒等も無く、少し寂しい元旦でした。一日も早いコロナの収束を願うばかりです。



◆田村上人の水行と厄除祈願祭 2月27日、28日

山務員の田村上人が、千葉県の大蔵院大荒行堂で寒百日間の厳しい修行を2月10日に成満して戻りました。その田村上人が、時折小雪も舞う院庭で、二日間の水行と厄年の方、祈願ご希望の方の『厄除祈願祭』を行い、例年より多目の72人がご祈禱を受けました。



寺のうごき



◆山林整備 昨年秋

寺の職員と鎌田上人、ボランティアの大橋孝裕さん、大滝惣次郎さん、石田誠一さんの協力で山林整備が進みました。今後も山からの排水対策と植栽等課題がありますが、資金不足です。浄土基金へのご協力をいただければ幸いです。



①足を踏み入れるのも困難な藪でした。



②竹の伐採、杉の間伐と抜根ですっきりしました。



③出土した石を素人のボランティアで積みました。

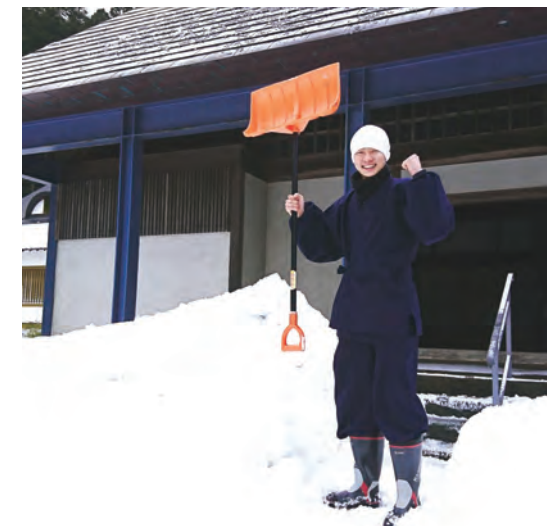


④角田浜の石田さんが管理用道路の整地に協力。



◆大雪と除雪 1月

1日で50cmあまりと例年に無い積雪の日がありました。車道は大滝総代が畑のトラクターで、参道を手作業で世話人の堀野さんが九州育ちの菊池上人を指導しながら除雪してくださいました。



— 宗教学者・正木晃先生に聞く —

修行は生と死の境目を体験すること

日蓮宗の「大荒行」は、昨年十一月一日から始まり寒百ヶ日を経て二月十日に終わりました。妙光寺の田村圭亮上人も、市川市の遠壽院で無事成満の日を迎えました。

外部との接触を一切断ち、一日二食で午前3時から7回の水行をし、睡眠は3時間弱でひたすらの読経。成満僧は、木剣による「祈禱」を行う資格を得ます。その修法は江戸時代半ば（約四百年前）に確立しました。僧籍にない私たちには遠いところにある「修行」は、コロナ禍の中で少し近いものになっているかもしれません。「修行」の意味と、現代に生きる私たちの心の持ち方についてうかがいました。



正木 晃先生
1953年、神奈川県生まれ。国際日本文化研究センター客員教授、中京女子大学助教授などを歴任。日本とチベットの仏教や修験道を中心に、修行における心身の変容、宗教図像学などを研究。

Q 今年も「大荒行」が終わりました。日蓮宗の「大荒行」について先生のお考えを聞かせてください。

正木 遠壽院の「大荒行」では、事前に伝師の戸田日晨師、藤田庄市氏と私による、いわば選考試験があります。誰でも修行ができるわけではないのです。まず法華経全巻を暗唱できなくてはいけないのですが、「ただ暗記だけしている人は修行に入れない」そうです。棒暗記しているのか、経典の言葉を感じながら唱えているのかは、聞けばわかります。それから「なぜこの荒行に挑むのか」が大切です。祈祷の資格を得るためにくる人もいますが、

それは駄目だということです。「修行」の前提として、この2点は私も大切だと思います。

Q 法華経は特別なお経なんですね

正木 法華経は、ゴータマ・シッター（釈迦）の時代にはまだ存在しない経典です。紀元後にインドで成立しそれが中国に渡って、中国語に翻訳されました。今日日本で読まれているのは、4世紀の鳩摩羅什が訳した法華経です。鳩摩羅什は語学の天才で、膝の上に古代インド語の経典を置いて中国語で唱えながら訳したそうです。その翻訳を民衆の前でおこなっていたと伝えられます。人々の前で、という点がポイントだと思います。鳩摩羅什の翻訳は少し元の経典から離れるところもありますが、彼の注釈本を読むととても正確に理解しているのがわかります。理解した上で、周りで聞いている人々を惹きつける言葉にしているのです。法華経の翻訳本は他にもありますが、鳩摩羅什訳が今も読まれているのはこの言葉の力ゆえです。日本では、飛鳥時代に仏教が伝来したときから法華経が尊崇されてきました。そして今も浄土教系以外のすべての宗派で、法華経が読まれています。

Q 法華経をただ暗記するだけでは駄目なんですね。

正木 法華経ほど唱えることで気持ちの強くなる経典はありません。私は法華経と般若心経が一番人を元気にする経典だと思っています。経典が持つ力を「経力」といいます。法華経は「経力」が最高に強い経典です。「大荒行」の生活は読経三昧です。「経力」を感じながら唱えているかを、戸田伝師は見ておられるのでしよう。

Q お釈迦様は肉体的な苦行よりも瞑想をして悟りを得たと聞いています。お釈迦様の時代の「修行」はどんなものだったのですか？

正木 お釈迦様は二六〇〇年ほど前のインドに生まれた人です。その当時のインドでは、すでに確立した修行法があつて、最

初はお釈迦様もその中の苦行を実践しました。息を止めたり、断食をしたりする修行です。「修行」の中心は、「禁欲」であり「自己制御」なのです。足かけ7年やうて「苦行」を捨てたと言われていますが、私はむしろその7年を経て「瞑想」に入り、そして「悟り」を得たのだと考えています。何の準備もないところにいきなり「悟り」がやってくることはありません。肉体的な「苦行」が準備の過程として必要だったでしょう。「苦行」は日常生活から離れる状態です。普通に働いたり談笑したりしていたのでは、「苦行」はできません。また当時の「修行」はあくまでも個人で行うものでした。遠壽院の「大荒行」も含めて、集団で行うようになったのは明治以後のことです。また修行中も衣食は必要ですから、それらを施してくれる人々が不可欠です。お釈迦様も支援者のいる村で「修行」をしています。お釈迦様にミルク粥を捧げたスジャータのような人は大勢いたようです。

Q 普通の生活をしていたのでは、「修行」はできませんね。

正木 お釈迦様の時代の仏教は、すべての絆を捨てて一人で「修行」するものだったのです。でも今から二〇〇〇年ほど前になると、久遠実成の釈迦牟尼仏（永遠にいてくださるお釈迦様）に帰依して普通に生活することが「信心」であるという考えが生まれました。それが大乘仏教です。僧侶のみに許されている「大荒行」は、

仏教の「聖」と普通の生活の「俗」をつなぐものだと思います。

Q 「大荒行」は江戸時代から始まったものです。日蓮聖人の時代にはなかったわけですが、どう考えたらいいのでしょうか？

正木 日蓮という方の行動の中には、あえて過酷な状況に身を置く、という思想があると思います。強い使命感があったのだらうと思いますが、その人生は難行苦行の連続です。それは「正しいからこそ弾圧される」という法華経に宿る精神から来ている生き方で、現実は何回も殺されそうになるなど、文字通り命がけでした。

最晩年の日蓮聖人が到達した深い思いがあります。その意味を学ぶ機会を得ながらみつめていけば、瞑想につながる深い境地を得られるでしょう。そして、実は私は「曼荼羅」の研究者なので、「大曼荼羅」を白抜きにして色を塗る試みをするのはどうかと思っています。自由に色を塗ると一人ひとりの個性も出て、しかも日常から離れた時間を持つことにもなります。命がけとまではいかなくとも、「修行」を日常の中で持つことはできると思います。

Q 普通の檀信徒は日常の中で、何を実行したらいいのでしょうか？

正木 まずはやはり法華経を声に出して読むことだと思います。ただ一人で読経したりお題目を唱えたりするのは日常生活の中では難しい。できれば定期的に集まって、一緒に読経できたらいいですね。次に、一人で声を出すのが難しい時は、仏壇の中にある御本尊の「大曼荼羅」をみつめるのはどうでしょうか。「大曼荼羅」には、

Q 最後に、コロナ禍での私たちの心の持ち方を教えてください。

正木 コロナの死者は7千人を超えたそうです。日本の年間の死者は130万人です。すから多いとも少ないともいえませんが、社会の弱いところを突いて、私たちの絆を断ち切る病気であることは間違いありません。「コロナの時代」は「死ぬことの意味を見つめなおす時代」とも言えるでしょう。



大荒行という厳しい日々の中で、改めて自分自身を見つめ直すことができました。これを新たなスタートだと思い精進を続けていきたいと思っています。（田村圭亮）

う。宗教改革の中心人物であるルターが言ったといわれている「たとえ明日世界が滅びようとも、今日私はリンゴの木を植える」という言葉は、強い宗教的な信念を表現した言葉だと思っています。死後の世界がどうなるかはわからない。でも今私は何かをせざるを得ない、という信念です。私は、お寺には人々のつながりを回復する努力をしてもらいたいと強く思います。そして寺に集う人々に理想の死に方を思い描く訓練を促してもらいたいですね。「良い死に方——できるかどうかはわかりませんが——をするために、今をどう生きるか」をみなさんに考えてもらいたい。コロナ時代は、まさに「死を学ぶ時代」だと思います。

本日は大切なお話をありがとうございました。（聴いた人 編集部・新倉理恵子）

新型コロナウイルス感染症対策

収束の見通せない新型コロナウイルス感染症に、次のように対応しています。

***法事・葬儀** マスク着用、手指消毒のうえで密にならない人数での参列をお願いしています。本堂、控室等は十分な広さがあり、換気も行っています。おときはご予算に応じたお持ち帰り料理をご紹介します。

***春彼岸、ご判さまお大会** 行事案内ページをご覧ください。

***夏以降の行事** 詳細は7月1日発行の『妙の光』で改めてお知らせします。お盆墓参りは昨年同様、例年の8月1日を含めた3日間程度の分散を予定しています。8月19日の岩屋七面様祭礼は午前中の法要のみ。月末の送り盆は午後から密にならないように一部簡素化して実施し、昨年同様にネット配信も計画しています。

***浄土講座** 4月に古墳の「現地説明



院首手作りの『歴代住職廟』1/20模型

歴代住職墓移転計画

「会」を計画しています（行事案内参照）。その他の研修会、団体参拝旅行は休止します。ご理解とご協力をお願いします。

山裾に広がる旧来墓地は、行政から崩落危険地帯とされていますので今後平地



本堂脇の『歴代住職廟』予定地

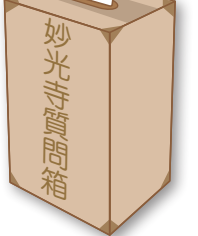
への移動を検討しています。まず歴代住職と弟子の墓石移動を先行して行います。2ヵ所に分散して42基ある墓石を31基に統合し、本堂脇に整備した場所に移します。そこに院首婦人小川なぎさの墓

人事

新年度を迎えますが職員体制に変更はありません。田村上人が昨年11月1日から百廿日間、千葉県市川市遠寿院の大荒行での寒修行を行い、2月10日無事に終えて復帰しました。

外壁、鉄骨塗装工事

本堂建て替えから20年、客殿は40年が経過します。維持管理には定期的な補修が必要とのことで、10年に一度の外壁と鉄骨の塗装を5月に計画しました。そのために積立ててきた定期預金満期を迎えましたので、経費に充当します。期間中は作業用足場を組みます。本堂参拝の折には足下にご注意ください。



Q 本堂脇にある「位牌堂」とはどのような施設ですか？

希望する檀信徒の位牌を安置しています

本堂と祖師堂を繋ぐ建物で歴代住職の位牌を中央に、檀信徒の皆様からお預かりしている位牌を安置しています。ここを「位牌堂」といい、どこのお寺でも本堂の傍にあることが多いので、ご覧になったことがある方もいるのではないのでしょうか。

安置した位牌は毎朝のお勤めで、月命日にあたる方の戒名を読み上げ供養しています。月回向とか月経と言って、毎月の命日に寺からお尋ねして読経するお宅が多くあります。家庭の都合でそれが叶わない場合、お寺にも位牌を安置してご供養することから始まったようです。最近では実家が絶えた等の事情で、家に仏壇を置けない方が申し込まれるケースもあります。

妙光寺では1年更新でのお申込みと、30年一括申込みの二種類があり、後者を永代経と規定してそれぞれ金額を明示しています。

位牌は故人と私たちを繋ぐもの

そもそも位牌とは亡くなった方を供養の場にお招きするための、目印・拠り所となるものです。「貴方の戒名を記したこの位牌に降りてきてください。供養の気持ちを受け取ってください」というわけですね。各家のお仏壇にあるのも同じで、位牌は私たちと故人を繋ぐためにあるのです。

「位牌堂」に並んだ皆さんの戒名を見ると、この全ての皆さんと更に多くの方々が墓地に埋葬されているのだと、気が引き締まると同時に暖かな気持ちになります。（小川良恵）

*地域や宗派によっては、全檀信徒が家の仏壇とは別にお寺に位牌を預ける習慣があります。その場合の位牌堂は大概独立した大きめの建物になっています。